

令和4年度 第29回定時総会報告

日時:令和4年 5月28日(土)10:00~10:55

開催方法:ZOOM 配信

出席者:172名(委任状含む)

➤ 次 第

会長挨拶

議案審議

第1号議案 令和3年度事業報告及び決算承認の件

第2号議案 定款一部変更の件

第3号議案 事業計画及び予算承認の件

閉会の挨拶



会長 團野 一美

訪問看護ステーションひなた (G)

会長挨拶

本日はお忙しいところ令和4年度の定時総会にご参加いただきましてありがとうございます。令和2年度、3年度の定時総会は書面決議とさせていただきますため、皆様に参加いただける総会は3年ぶりとなります。また、今年度はWEBでの開催という初めての試みになりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

さて、要綱のご挨拶にも書かせていただいておりますが、当会は「一般社団法人」としてスタートし10年が経過いたしました。当時京都府の訪問看護ステーションの数は140か所、令和4年2月28日現在では375か所と増加し続けております。半面、当会の入会事業所数は186か所と50%を切っているのが現状です。協議会の活動を皆様にご存知いただき、入会事業所数を増やして活発な地域活動が行えるようご協力をよろしくお願いいたします。



司会 島田 慎治

訪問看護ステーションみわの里 (A)

この2年間はみなさまもご承知の通り、コロナ禍での生活を余儀なくされています。当会の運営におきましても試行錯誤の日々でした。様々な困難がある中で、ピンチをチャンスととらえ、活動を行って参りました。

まずは研修についてです。当会の活動の多くを占める研修の開催が実施できない状況が続いていましたが、令和3年度からWEBでの研修を開始いたしました。当初は慣れない操作に翻弄されておりましたが、少しずつ形作られ現在に至っております。今後は集合研修とWEB研修の利点を考慮しながら研修計画を立てていきたいと思っております。

次に地域でのネットワークについてです。各地域でステーション同士の連携を行い、コロナ感染により休止を強いられたステーションを他のステーションがフォローし、運営や業務を途切れることなく遂行することができました。令和3年11月から当会はコロナ感染者の自宅療養者の健康観察業務を京都府と京都市から委託を受けて行っております。訪問の依頼があった時どのステーションに訪問してもらうかを決める際、各地区で訪問可能なステーションを選択し訪問を行えるようなシステムもできております。また、地域医師会等と連携し、看護師だけでなく、ケアマネジャーや介護事業所へも研修を行ったり、コロナ感染者に積極的に訪問するなどの地域貢献も行って参りました。これらのことは今年度も引き続き行っていきたいと思っております。

皆さまもお耳にされていると思いますが、日本看護協会が「訪問看護総合支援センター」の設置を推進しております。当会は地域の訪問看護に係る様々な課題を一体的および総合的に解決し、訪問看護提供体制の安定化・推進支援を図るために、令和5年度の設置を目標に京都府看護協会や行政との話し合いを行っているところです。

最後になりましたが、今年度も5本柱を中心に皆様と一緒に当会を盛り上げていけたらと思っております。ご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

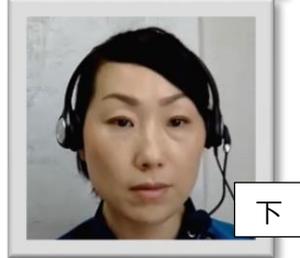
審議事項

議長団



奥谷

議長 奥谷 典子 京丹後市久美浜訪問看護ステーション(A)
議長補佐 下 里恵 訪問看護ステーション ひのき(B)



下

第1号議案 令和3年度事業報告及び決算承認の件

総会資料に基づき、三宅副会長から令和3年度総会は新型コロナウイルス感染症拡大のため、書面で開催、また運営委員会・理事会開催並びに他関係団体等の会議はWEB開催となり、4月の新日合同会議のみ対面で実施。総会報告未掲載の事案については、京都市の新型コロナウイルス感染症患者の健康観察業務を京都市からの依頼で実施したと報告があった。

その後、各委員会報告、西田副会長から令和3年度地区支部活動報告、研修実施報告がなされた。続いて物部副会長から令和3年度地区支部決算報告、令和3年度研修補助金清算報告、令和3年度会計決算報告がなされた。次いで吉井監事から監査の結果収支に相違ない旨の報告がなされ、審議の上、原案通り承認された。

第2号議案 定款一部変更の件

総会資料に基づき、團野会長から定款の一部変更について説明がなされ、審議の上、原案通り承認された。

第3号議案 令和4年度事業計画及び予算承認の件

徳山副会長から令和4年度事業計画(案)、また鶴飼副会長から令和4年度研修計画(案)の説明がなされ審議の上、原案通り承認された。引き続き物部副会長から令和4年度研修補助金事業内訳、令和4年度会計予算(案)の説明がなされ審議の上、原案通り承認された。また藤澤副会長から令和4年度役員・地区支部運営委員(案)、令和4年度事業担当表(案)について説明がなされ、審議の上、原案通り承認された。

今年度退任理事・運営委員の紹介

理事	田辺 順子	総合ケアステーションわかば(B)		
運営委員	島田 慎治	訪問看護ステーションみわの里(A)	茶谷 妙子	訪問看護ステーションひろば(B)
	富田 登志恵	訪問看護ステーション宝ヶ池(B)	安井 有里	そのべ訪問看護ステーション(C)
	恵 千佳子	訪問看護ステーションやすらぎ(E)	本間 有美子	訪問看護ステーションふれあい(F)
	上林 有香	訪問看護ステーション第二かいせい(G)		

退任代表の挨拶

副会長 田辺 順子 総合ケアステーションわかば(B)



令和元年度から令和3年度までの3年間副会長を務めさせていただきました。管理者経験が浅く、管理業務に不安が多い中、2か月に1度の地区管理者会議では会員STの管理者の皆様を支えられ、温かくご指導いただいたことが大変心強かったです。任期途中で新型コロナウイルス感染症が広がる厳しい現状もありましたが、会長はじめ皆さまにご協力いただき、研修企画や運営、委員会活動等を行ったことは、自事業所にとりましても大変勉強なり、有意義な経験をさせていただきましたことを感謝いたします。

閉会の挨拶

副会長 山本 かおり 訪問看護ステーションみなみ(D)



今回初めてのWEB開催でしたが、滞りなく終了できましたことを大変嬉しく思っております。ここ2年間に振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が協議会活動にも多大な影響を及ぼしました。しかしその一方でWEBという新たな形式を取り入れることで活動の幅も拡大しつつあります。今後も皆様と共に協議会活動を盛り上げ、発展させていきたいと思っております。今後ともご協力の程、よろしくお願いいたします。

令和4年度

日時:令和4年 5月28日(土)

13:30~15:00

開催方法:ZOOM 配信

春の特別講演報告

京都市消防局報告



京都市消防局予防部予防課 予防課課長補佐 **織田 昌延 氏**

京都市消防局の取り組みについて

- ・高齢者世帯の火災予防対策(防火のポイント)
- ・高齢者等世帯の火災の予防に関する協定の締結→訪問看護ステーション協議会との連携
- 住宅防火点検の実施→異常を感じた場合→消防局への住宅防火点検結果連絡票の送付
- 消防職員による具体的な防火指導
- ・安心アドバイザー研修の紹介(1時間程度の講義)訪問看護に行った時の見るポイントを学ぶ。
(安心アドバイザーハンドブック配布あり)

おrita



司会 物部 理奈
訪問看護ステーションたんまぼ (B)



特別講演

「妖怪人間ベムは永遠に笑わない」

—聴くこと・語ることの意味寄り添うって？

向き合うって？

倫理やコミュニケーションの本質はここにある—

京都大学人間・環境学研究科 **佐藤 泰子氏**



講演のオープニングはいきなり大阪ラブソディーと先生の弾丸トークで景気よく開幕しました。一気に先生のお人柄に惹かれました。

話し初めは患者の苦悩について患者は特別な人ではない。医療者と同じ。「なんで私が」「生きている意味が分からない」苦しみとは何かについて語って下さいました。「苦しみと緩和の構造」なぜ苦しいのか？その苦しみに私たちはどう寄り添うのか。先生はたくさんのヒントを下さいました。一番深いところに隠れている感情に寄り添う表現は出来ないから「観る」のだと。

～話して、離して、放す～

私たちは人生のゴールテープが見えない。いつ死ぬのかもわからない。一人ぼっちにしないでほしい。人生のゴールテープは一人で切る。握っていたロープは逝く人に持たせる。繋いでいた手を広げるとそこにはロープを握っていた確かな感触と少しの痛みが残る。

援助者はこのプロセスを一緒に走る。もしかしたら最期まで利用者さんの気持ちは分からないかもしれない。でも私達は最期まで寄り添い続けることの意味を利用者さんから教えられていると思います。

妖怪人間ベムは「早く人間になりたい」死ねない妖怪はいつか死にたいと願う。いつか終わりが来るから今に意味が立ち上がってくる。死ぬからこそ生きる意味がある。死なないなら生きる意味はない。人間になりたいという言葉にこれほどの深い意味があり、自分が生きていることの意味を改めて考えることが出来ました。

縁があって関わる事が出来た利用者さんに寄り添うことの意味、利用者さんに私たちが導かれていること。誰かとの間に存在価値があり、生きることの意味はだれかとの間に間(あわい)があるから。

講演後は心が温まりこれまで看取りをさせて頂いた利用者さんの顔が浮かび思ふことが出来ました。

最後に…これまでの苦しみがある小さな幸せを支えている。

当たり前感謝出来る日常を過ごしたいです。



特別講演 閉講ごあいさつ

副会長 小松 匡也 訪問看護ステーションふかくさ (F)

佐藤先生、本日はご多忙の中、本当に貴重なご講演ありがとうございました。

様々な疾患を抱えながら、在宅で生活を送っている利用者様と日々向き合い、利用者様とその家族の思いなど理解しようと、コミュニケーションを大切に、悩み、葛藤されていることと思います。

その中で、本日の佐藤先生の講演の中で得た「苦しみと緩和の構造」「話して離して放す」「立ち位置変われば見え方が変わる」などを少しずつでも考えながら利用者様とその家族に対して、苦しみやこうありたいという思いなどに寄り添い、その人らしい意思決定支援に携われるというヒントを頂いたように思います。私たちは利用者様の伴走者であり続けたいと思います。

終始、先生のパワーに圧倒されっぱなしでしたが、先生のパワーに負けない様、私達も明日から頑張っていきたいと思います。

編集後記

今年度は初めての WEB 会での総会となりました。開催にあたり当日までの準備等大変だったと思いますが、大きなトラブルもなく無事に終わられ良かったと思います。

関係者の方々、大変ご苦労様でした。令和 3 年度は WEB 研修も多くあり、協議会活動も前年度より増え、たくさんの活動をされました。今年度においても多くの行事や研修が計画されており、たくさんの方に参加いただき協議会活動が盛り上がっていくことを望みます。

春の特別講演では佐藤康子先生の話術に引き込まれ、コミュニケーションの本質について学ばせていただくことができ、今後の看護についても考えることができた大変有意義な講演会となりました。

最後に…。2年間広報委員として協議会運営に少しだけですが関わらせて頂くことでたくさんの方との出会いもあり、学びもありとても濃厚な2年間となりました。研修報告書作成においては事務局の大きなお力もお借りし HP にアップしていただくこともできました。この場をお借りして感謝申し上げます。

今後も協議会活動に積極的に参加し、地域社会に貢献できるよう皆さんで取り組みましょう。

広報委員会 令和2年度～令和3年度委員

安井 有里 そのべ訪問看護ステーション(c)

上林 有香 訪問看護ステーション第二かいせい(G)

本間 有美子 訪問看護ステーションふれあい(F)

